



2013/02/03

## タイトル: 独身でいること…祝福、それとも呪い?

早いものでもう2月です。ということは、チョコレートの季節ですね。

もうすぐバレンタインデーです。彼女や奥さんのいる男性は、相手が忘れていなければ、チョコレートをもらえるでしょう。

女性は残念ながら、日本では来月のホワイトデーまでおあずけですね。でも、来月にはチョコレートや花束、風船、おしゃれなレストランでのディナーや映画も期待できるのではないのでしょうか。

女性はみんな、「ああ、なんてロマンチック!」と思うでしょう。

男性陣は、「ああ、高くつく!!」と思っているでしょう。

けれども、現在恋人も配偶者もない人にとって、バレンタインやホワイトデーはどんな日になるでしょう。「お金が浮いていいわ」と思う人もいれば、「ひとりぼっちだ」と寂しくなる人もいます。

残念ながら、それが現実です。たくさんの方が、ひとり身であることを嘆きます。自分が取り残されたような気持ちになり、そういう孤独からうつになることもあります。すると、うつが原因で薬物やアルコールに依存したり、ひきこもりになったり、自殺まで考えるようになります。

けれども、独身であることはそんなに悪いことでしょうか。マスコミやメディアではそんなふうに言われがちです。クリスマスやバレンタインなどには特に、独身がいかに寂しいものかと思わされます。そして、孫を欲しがらる親も、独身は寂しいと思っているようです。

事実、おひとりさまは寂しいと世間一般に思われているようで、特に、ある一定の年齢を過ぎると、それは不幸で恥ずかしいことだとさえ考えられるようです。

けれども、それは世間の言い分です。みなさんは世間の言うことなど気にしていないからこそ、今日ここに来てくださったのだらうと願います。私たちがここにいるのは、神がどう思っておられるか聞くためです。神のみことばである聖書は、独身であることについて何と言っているのでしょうか。

これからみことばを見ていきますが、既婚者の方々にもぜひしっかり聞いていただきたいと思います。知り合いに独身の人は必ずいるでしょうし、その人たちがこういったことで悩んでいる時に、神の教えにかなう賢明な助言をしてあげられるようにです。

そういうことを念頭に、学んでいきましょう。

**創世記 2:18** 神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」

これが総じて正しいのは明らかです。神は私たちにひとりであることを望まれません。このひとりとは、人とのつながりがないことを指しています。

聖書にはこれを裏付ける多くの個所があります。

もちろん、私たちに神がいつもともにいてくださることを知ってほしいと神は願っておられます。

**ヘブル 13:5b...** 主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

また神は、これを信じるかどうかを選ぶ自由意志を私たちに与えてくださいました。神とつながるかどうかを選ぶのです。

同様に神は、私たちが人間同士で交わりを持つことも望んでおられます。

**ヘブル 10:24** また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。

**ヘブル 10:25** ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

けれども、これも私たち次第です。

「友だちを作るには、まず自分が親しみやすい人になる必要がある」

けれども、**創世記2:18**では、

ひとりであることがよいかどうかを尋ねているのではありません。聖書にはっきりと、私たちがひとりであることは神のみこころでないと確認されています。私たちの直面する疑問は、独身であることが良いのか悪いのかです。

独身とひとりぼっちをイコールと考え、だから独身は悪いと言う人もいます。

けれども、それは違います。独身とひとりぼっちとは同じではありません。結婚している人でも、ひとりぼっちだと寂しく感じている人はたくさんいます。家庭内別居の状態の人もあります。

それが現実だということを誰もがわかっています。

皆さんはどう思いますか。世間が言うように、独身であることは悪いことだと思いますか。

独身であるよりもっとよくないことがあります。

それは、間違った相手と結婚することです。そっちのほうがよほどよくありません。

このことを考慮するなら、独身であることは悪いことでしょうか。神は何と言われたでしょう。

**創世記 2:18** 神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」

一見、聖書ははっきり答えを出しているように見えます。

「人が、ひとりであるのは良くない。」

神がそう言われたのなら、そのとおりなのでしょう。しかし、神は実際何と言っておられるのでしょうか。原語をよく見てみると、その内容がはっきりしてくるかもしれません。「人」と訳された単語に注目してください。原語のヘブル語では、「アダム」の名が使われています。

0120 Mda 'adam aw-dawm'  
アダム、初めの人

ですから、聖書を原語に近い形で訳すようになります。

**「アダムが、ひとりているのは良くない。」**

「彼にふさわしい助け手」について具体的に触れているわけです。それは、アダムの婚約者、エバのことです。

ですから、この個所は「人類」が独身でいるのはよくないと語っているわけではありません。

私が独身だった頃、一番やっかひだったことがなんだかわかりますか。信じられないかもしれませんが、肉の欲望を抜けば、一番やっかひなのは**既婚者の人たち**でした。既婚者の人ほどわずらわしいものはありませんでした。顔を見るたびに「いつ結婚するの」と尋ねてくるのです。そして、創世記2:18を引用して、「人が、ひとりているのは良くない。と聖書に書いてあるでしょ」などと言います。挙句の果てには、未来の奥さんのために祈っているとまで言ってきます。有難迷惑もいいところです。私が独身であることが、その人たちの目から見て「よい」ことでないのかもしれませんが、それを知っても、気分がいいわけありません。

ヨブが3人の友人にこう言ったときの気持ちそのものです。

**ヨブ記 16:2** そのようなことを、私は何度も聞いた。あなたがたはみな、煩わしい慰め手だ。

その人たちが神に代わって「**ジョセフが、ひとりているのは良くない。**」と言っているかのようです。もちろん今の「私」にとって妻なしでひとりていることはよくないことです。けれども、当時はよいことだったので。そして、独身だからとよくよしたり落ち込んだりすることこそ、「よいこと」、または「**神の望まれること**」ではないと、私はわかっていました。

独身でいることは、神の呪いではありません。世間の風潮とは逆に、聖書には独身であることは賜物だと書かれています。

**ヤコブ 1:17** すべての**良い贈り物**、また、すべての**完全な賜物**は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

使徒パウロ（独身者）は、神からの賜物について語っています。次の個所ではこのように語ります。

**1コリント 7:7** 私の願うところは、すべての人が私のものであることです。しかし、ひとりひとり神から与えられたそれぞれの**賜物**を持っているので、人それぞれに行き方があります。

**7:8** 次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のようにしていただけるなら、それが**よい**のです。

もちろんここでパウロが指しているのは、独身でいることです。パウロのように、神が独身でいる**賜物**を人にお与えになるのです。そして、パウロによれば、それは「よい」ことなのです。

パウロにとってよくても、私にはよくないと思っている人もいるのでしょうか。「そんな賜物ほしくない！」と。

あまり聞きたくない話かもしれませんが、今現在独身の人は、欲しいかどうかに関わらず、すでにその賜物をもっているのです。それを賜物として受け入れるのも、呪いとして拒絶するのもあなた次第です。どちらにしろ、あなたの選択なのです。イエスはこのことについて、次の個所でこうおっしゃいました。

**マタイ 19:12** というのは、母の胎内から、そのように生まれついた独身者がいます。また、人から独身者にさせられた者もいます。また、天の御国のために、自分から独身者になった者もいるからです。それができる者はそれを受け入れなさい。

独身者とは、ここでは、神の御国が拡大されるために奉仕に専念し、自主的に結婚を避ける人のことです。

改めて言いますが、これを賜物として受け取るためには、これを受け入れなければなりません。

イエスはおっしゃいました。

**「それができる者はそれを受け入れなさい。」**

これを受け入れる気がありますか。

なぜこのような話をするのでしょうか。それは、未婚の人、離婚経験者、死別された方を含め、独身の方々のことで心を痛めているからです。独身の方々をかわいそうに思って心を痛めているわけではありません。むしろ、神がすばらしい賜物を差し出してくださっているのに、ほとんどの人がそれを受け取るうとしないからです。

ジョセフは結婚しているから言えるのだ、と思いますか。そのとおりです。今は結婚してとても幸せです。けれども、私にも独身の時代はありました。私は26才でクリスチャンになりました。そのとき、信徒でなかった彼女と別れました。そして、エイミーと付き合い始めるまで13年間彼女はいませんでした。

アメリカの母教会では、私が誰とも付き合わないで、きっと独身主義の賜物があるのだと思われていました。同性愛者だと思っていた人もいるようです。けれども、私は独身主義の賜物を持っていたわけでも、同性愛者だったわけでもありません。

自分は再臨まで独身でいるのかと思っていました。

それでも、エイミーと結婚してからの3年間を除けば、その年月は人生最高の日々だったと思います。それは、神が私に与えてくださった賜物を受け取る選択をしたおかげです。独身であることを、呪いではなく賜物として受け取ったのです。だからこそ、私は神に心のすべてを捧げることができました。神のみにすべて捧げ切ったのです。

これこそパウロが言っていることです。

**1 コリント 7:32** あなたがたが思い煩わないことを私は望んでいます。独身の男は、どうしたら主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。

**1 コリント 7:33** しかし、結婚した男は、どうしたら妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、

私は、神の手となり、足となり、神に望まれるように生きることができました。神が送ってくださる場所にはどこへでも行き、神が望まれることをする、なんともすばらしい歲月でした。

たやすいことではありませんでした。先ほども言ったように、私には独身主義の賜物はありません。実際、ずいぶん葛藤もありました。

パウロのように、私は3度ではなくもっと何度も、私の欲望というとげを取り去ってくださるよう神に願いました。

**2コリント 12:8** このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。

2コリント 12:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

2コリント 12:10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

強くなりたければ、自分の弱さを知らなければなりません。

**私が弱いときにこそ、私は強いからです。**とパウロは言いました。自分の弱さを認め、神の力に頼るなら、どんなことでも乗り越えられます。

逆も真なりです。私が強い時、つまり、私は誘惑などに陥らない、自分の力で誘惑を処理することができると思ったら、それこそが一番弱いときであり、つまりくのは必至です。自分の弱さを認めてもよいのです。それは、謙虚さです。

**1ペテロ 5:6** ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

イエスでさえ、ゲツセマネの園で3度叫ばれました。

**マルコ 14:36** またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」

自分の弱さを知って、神に助けを求めればよいのです。孤独の苦しみを取ってくださいと願ってもよいのです。配偶者を与えてくださいと祈ってもよいのです。どのような状況でも、神に助けを求めればよいのです。

**ルカ 22:44** イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

イエスは私たちの罪のために十字架へ行こうとしておられました。それは死を意味します。十字架は死の象徴でした。

**ルカ 9:23** イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

キリストは今日、何に死ぬことをあなたに望んでおられるのでしょうか。独身であることでしょうか。恨みつらみでしょうか。孤独や病気でしょうか。猜疑心や不安、不信仰、欲望でしょうか。結局はすべて、あなたの望みや願いです。

私たちの肉は、自然と死を追い払おうとします。ですから、自然と十字架を追い払おうとするのです。自分を捨てるとは、自分の願望に死ぬことです。それが、イエスの言われる十字架です。私たちがイエスについて行きたいなら、その十字架を受け入れ、自分自身に死に、自分の願望に死ぬ必要があります。

園の中で、イエスはこう言われました。

**マルコ 14:36** またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」

この祈りの前半部分は、私たちも祈ります。イエスもそのように祈られたのですから、何の問題もありません。私たちが神の前で正直であることを、神は望まれます。もしかすると、願ったとおりのことを神がしてくださるかもしれません。けれども、この祈りの後半もちゃんと祈ろうと思っていますか。

「しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」

**ヘブル 12:2** 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、**ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず**に十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

**「ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、…十字架を忍び、」**

イエスは、園で血の汗を滴らせておられたのですから、このひと時を楽しんではおられませんでした。あなたにとっても、何かに死のうと苦しむのは楽しいことではありません。肉が追い払おうとするわけですから。

けれども、その喜びにあずかるには、イエスがなされたように、自分の前に置かれた十字架を忍ばなければなりません。そうすれば、その喜びが見えてくるでしょう。

私は再臨まで独身であることを望んでいたでしょうか。一生一人身であることを…。そんなことはありません。正直なところ、そんなふうには思っていませんでした。孤独の園で煩悶する日々を送ったこともあります。けれども、いつも祈りの最後には、「しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」と祈っていました。

十字架を受け入れ、「主よ、あなたの御国と栄光のために私が一生独身であることをあなたが望まれるなら、私はここにおります。どうぞ、送ってください」と言えるようになって初めて、神の完全なみこころのうちにある喜びというものを体験しました。

皆さんにぜひ知っていただきたいことがあります。それは、私はエイミーを心から愛していますし、エイミーを愛せることはすばらしいことですが、独身であることもまたすばらしかったということです。神の望まれる所に行き、望まれることをできるのはすばらしいことです。私はこのすてきな賜物を

謳歌しました。だからこそ、独身の人たちがせっかくの賜物をふいにしているのを見ると、とても悲しく思うわけです。

独身でいることは容易いことでしょうか。そんなことはありません。結婚願望があるならなおさらです。結婚生活を送るのは容易いことでしょうか。そんなことはありません。独身でいたい人にはなおさらです。

けれども、結婚して家庭を持つことを望んでいる人は、うまくいくように努力を惜しまないでしょう。独身でいることも同じです。私たち次第だということです。

独身として生きることがうまくいくよう惜しまず努力しようという気がありますか。

今現在独身の人に知っていただきたいのは、あなたが独身でいることを、神が天国で悩んだり心配したりはなさっていないことです。神はすべてを治めるお方ですから。

あなたの人生のために立ててくださった神の完全なみこころに委ねようと思えますか。それとも、なんとかして抵抗しようと思えますか。

独身であることは祝福か、それとも呪いか。

それは、あなた次第です。あなたの受け取り方によるからです。

充実した独身時代を送った先輩として、独身の皆さんにぜひお勧めします。どうか、私がそうしたように、独身者に与えられた多くの恵みを受け取ってください。どうか主を信頼してください。神が独身の賜物を与えてくださる限り、それを存分に生かしてください。

イエスはこうおっしゃいました。

**マルコ 12:30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。**

つまり、生き方そのもので神をたたえましょう。そうすれば、神があなたを祝福してくださるでしょう。改めて言いますが、どうするかはあなた次第です。

では祈りましょう。